

令和元年度 九州ブロック研修会実施状況

1. 活動テーマ 「みる・つなぐ・うごかす ～保健師の原点から住民と共に創る未来～」
2. 目的 全国保健師長会の活動を共有するとともに、専門性の高い公衆衛生看護活動の強化のため、管理期の保健師が、地域に責任を持った活動を行うことができる保健師の人材育成についてより力をつけ、各支部で自主的な活動を推進する。
3. 日時 令和元年8月31日(土) 13時～17時10分
4. 会場 福岡市健康づくりサポートセンター『あいれふ』
5. 対象 全国保健師長会会員および統括的役割を担う管理期保健師 115名

6. 内容及び結果

<全国保健師長会活動報告>

「日常活動から把握した課題や現場の悩みをどう政策関与に反映していくか」「若い世代の人材育成の進め方」等を重要視し活動を進めている等の報告があった。

受講者からは「会の歴史、活動、方向性がよくわかった」等の意見が多く聞かれた。

<研究報告>

災害時、市町村保健師の半数が行政職員として「救護所運営」の役割が割り当てられており、本来担うべき保健師の役割を明確にし、庁内で理解してもらうことが必要であり、今秋完成予定の「災害時の保健活動マニュアル」を参考に自組織での活動に活用してほしいとの報告があった。

受講者からは「ポイントがよくわかった」「新マニュアルをぜひ活用したい」等の声が聞かれた。

<講演&ワーク・岸氏>

子どもや後輩・部下など、人を育てようとする時には、「人間が潜在的に持っているパラダイム(正常性バイアス等も含めた価値観の枠組み)がある」ことを認識した上で、その価値観の枠に囚われずに現実的に対応し、人の能力を最大限に引き出すコミュニケーションスキルを身に付けると、育てたい相手の様々な能力や資質、感性や感覚、態度や姿勢を引き出す育成が可能となる。

「褒める」ことから派生する「快」の報酬ではなく、認められること、承認される事から生じる「甲斐」の観点が、人材育成にも重要であるとの本質を学ぶことができた。

人間なら誰もが持っている脳の仕組みである「バイタリティのサイクル」の順番に基づいた、相手の自発性をはじめ様々な能力や資質を引き出すメッセージである『インテンショナルメッセージ』を活用できるようになると、人材育成はもちろんのこと、関係組織との連携や施策説明のプレゼンテーションにも応用可能となる。

「目からうろこだった」「面白く刺激的」「視点の異なる内容でよかった」「具体的で参考になった」「学んだ手法を取り入れたい」等様々な声が聞かれ、受講生の満足度も高かった。